自然に教わる「冒険教育」の可能性を探る

専門分野　野外教育

担当科目　冒険教育論特論など

伊原 久美子　教授

略歴

筑波大学大学院 博士課程 体育科学研究科 単位取得退学。
2009年より大阪体育大学に着任。

著書・研究論文

『冒険教育の理論と実際』（共著・杏林書院・2014年）
幼児・低学年児童における継続型組織キャンプの効果に関する研究（伊原久美子・中野友博ほか）野外教育研究 第16巻第1号、31-44.2013
「野外教育学研究法」（共著・杏林書院・2018年）

野外教育の一分野である「冒険教育」の研究をしています。冒険教育プログラムとは、自然の中で生じるリスクなどを利用しながら、参加者が心技体を用いて、解決へと導くことをめざすものです。子どもを対象にすることもありますが、最近は、企業やプロスポーツチームの研修などで実施されることも増えてきました。冒険教育プログラムには、コミュニケーション能力、リーダーシップ能力、自己効力感などを培える利点があり、より良い組織づくりやチームビルディングへの効果が期待されています。このほか、常に変化する自然や人の心と対峙しなければならない状況から、臨機応変にものごとを判断して行動する力を養うことも可能です。このことから、冒険教育は、“人間にしかできないこと”が問われるAI社会を生きる子どもたちの教育に、大きく貢献できる可能性があるとも考えています。

「冒険教育論特論」では、冒険教育で行われるチームビルディング、グループの成長プロセス、教育成果をふり返る体験学習法などを一通り体験しながら、冒険教育の意義や効果を考察しています。体育科学分野の研究は実践が重要です。もちろん、実践を裏づける理論もおろそかにできません。実践と理論の充実を心がけながら、研究に没頭してほしいです。

キーワード

■野外教育
キャンプなどの野外活動を通して行われる教育。「生きる力」を養う点が注目されている。

■冒険教育
登山、スキー、ヨット航海など、自然環境が生みだすリスクと向き合える環境で行われる。

■自己効力感
自分自身を信頼し、肯定する心の動き。自信。冒険教育を通して得られる力のひとつ。

■体験学習法
体験を学びに換える教育方法。体験をふり返って整理・反省し、次回の行動につなげる。